



# FEDERATION JAPONAISE D'ESCRIME

公益社団法人 日本フェンシング協会  
郵便番号 150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館  
TEL: 81-3-3481-2378 FAX: 81-3-3481-2379  
E-mail: info@fencing-jpn.jp

2018年2月

日本フェンシング協会支部各位、

## 公認スポーツ指導者制度の改定について(お知らせ)

日本体育協会にて公認スポーツ指導者の制度改定を検討しておりましたが、この程新内容が決定したとして連絡がありました。日体協の公示では2019年4月より施行としておりますが、日本フェンシング協会では1年間の移行準備期間を設け2020年4月から改定制度実施とする予定です。各支部に開催をお願いする資格取得講習会は現在の「指導員(新制度での名称は「コーチ1」)ですが、その資格も含め2020年度より新制度及び新カリキュラムに移行することになります。国体監督条件となる「指導員」資格保有など未だ日体協より正式な発表が為されていないものもありますが、昨年12月に公表された決定事項をお知らせ致します。

### 記

#### 1. 新制度への移行理由

- ・2005年の制度改定から10年以上が経過し、社会もスポーツ界も大きく変化するなかで「新しい時代にふさわしいコーチング」が求められる
- ・知識・技能だけではなく、思考・態度・行動を身につけたグッドコーチを養成する

#### 2. 新制度の資格区分

現行制度	新制度	講座開催者
—	スタートコーチ	各支部
指導員	コーチ 1	各支部
コーチ	コーチ 3	フェンシング協会
上級コーチ	コーチ 4	フェンシング協会

☆フェンシング競技では「上級指導員(新制度=コーチ2)」の資格制度なし

#### 3. 日本フェンシング協会が追加設定する受講条件及び専門科目カリキュラム

##### ① 受講条件

	年齢(4/1 現在)	保有資格
スタート	18歳以上	・不要
コーチ 1	18歳以上	・不要

コーチ 3	20歳以上	・ <b>コーチ 1</b> <*1> ・日本フェンシング協会推薦
コーチ 4	22歳以上	・コーチ 3 ・日本フェンシング協会推薦

☆<\*1> コーチ3の受講資格としての**コーチ1保有を条件**とするかは現在日本フェンシング協会にて検討中。別途結果を公示する

② 専門科目カリキュラム(案) <\*2>

	合計時間数	内 集合講座
コーチ 1	26 h	16 h
コーチ 3	60 h	32 h
コーチ 4	80 h	32 h

☆<\*2> **新カリキュラム**は現在日本フェンシング協会にて検討中。別途結果を公示する

☆新カリキュラム(案) 詳細は別添資料を参照のこと

4. 補足説明

- ・2018年度はアンケートによる受講希望調査を行った結果、開催条件となる下限人数を満たせないため、公認コーチ(最低12名)・上級コーチ(同10名)共に専門科目養成講習会は開催を見合わせ
- ・2019年度以降も事前アンケート調査を行い、資格を保有する受講希望者が人数を満たした場合に開催とする。
- ・2019年度のコーチ3(現公認コーチ)受講希望者の条件は①年齢②日本F協会推薦のみとし、コーチ1(現指導員)の資格保有は問わない
- ・2020年度以降のコーチ3受講希望者の条件は①年齢②**コーチ1資格保有**③日本F協会推薦とする
- ・コーチ4(現上級コーチ)の受講者は、コーチ3(現公認コーチ)の資格保有を条件とする
- ・コーチ4保有者のうち、下記条件を満たす者は日本体育協会の定める「マスター・コーチ」に推薦する。
  - a) 年齢40歳以上であること
  - b) 現役トップ・コーチである者
  - c) 競技指導者として中核的な役割を果たした実績のある者
  - d) 競技別指導者を育成・指導した顕著な実績を有し、今後とも継続して育成・指導に当たれる者
  - e) 日本F協会への貢献度の高い者

以上

日本フェンシング協会  
指導者育成部会

第 29 回体協活推発第 111 号  
平成 29 年 10 月 24 日

日本体育協会公認スポーツ指導者資格協同認定団体  
事務局長 殿  
都道府県体育（スポーツ）協会  
事務局長 殿

公益財団法人 日本体育協会  
事務局長 河内 由博



### 日本体育協会公認スポーツ指導者制度改定に係る決定事項の通知について

平素より公認スポーツ指導者の育成にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、先般は、標記制度改定に係るアンケート調査にご協力いただき、重ねてお礼申し上げます。アンケートにご回答いただきました内容について、指導者制度検討プロジェクトにおきまして慎重に協議した結果を基に、去る 9 月 28 日、平成 29 年度第 2 回指導者育成専門委員会を開催し、制度改定に伴う継続協議としていた事項のうち下記の事項について決定いたしましたので、ご通知いたします。

併せて、上記アンケート調査結果についてご報告申し上げます。

#### 記

#### 1. 指導者育成専門委員会における決定事項について

##### (1) 競技別指導者資格の名称

- ・アンケート調査における質問 1・(1) で伺った競技別指導者資格の名称については、87% の団体から賛同を得られたため、現行の「指導員」、「上級指導員」、「コーチ」、「上級コーチ」をそれぞれコーチ 1、2、3、4 へ変更することを決定しました。

##### (2) 新制度における競技別指導者資格の概要

- ・アンケート調査における質問 1・(2) で伺った新公認スポーツ指導者制度における競技別指導者資格の概要（受講条件、想定受講者像、資格取得後の役割等が記された資料）については、92% の団体から賛同を得られたため、ご提案のとおり決定しました。

##### (3) スタートコーチ（仮称）の名称

- ・アンケート調査における質問 1・(3) で伺ったスタートコーチ（仮称）の名称については、79% の団体から賛同を得られたため、スタートコーチという名称で新設することを決定しました。

##### (4) 競技別指導者資格の専門科目カリキュラム等について

- ・アンケート調査における質問 2 で伺った、「同じ公認スポーツ指導者として認定していくうえで、最低限度、全競技団体で統一しておくべき事項」として、ご提案していた以下の 2 点について、85% の団体から賛同を得られたため、原案どおり決定しました。

- ① 専門科目カリキュラム時間数は、学びをステップアップさせるという観点から、コーチ 1 は 20 時間以上、コーチ 2 は 40 時間以上、コーチ 3 は 60 時間以上、コーチ 4 は 80 時間以上と漸増するよう設定すること（カリキュラム時間数の設定ですので、集合講習会の時間数と自宅学習の時間数の配分は、競技特性等を踏まえて各団体に決定いただきますが、検討の段階でその内容についてお知らせ願います）。
- ② 専門科目のカリキュラム構成は、従来どおり基礎理論、実技、指導実習の 3 カテゴリーで構成する。

## 2. 決定事項以外の協議の進捗について

アンケート調査では、新公認スポーツ指導者制度に移行後の養成講習会の具体的な開催方法や事務手続きについて、多くのご意見・ご質問をいただいております。いただきましたご意見を踏まえ、指導者制度検討プロジェクトを中心に、引き続き検討を重ねてまいります。

## 3. 同封資料

- ・日本体育協会公認スポーツ指導者制度改定に向けた検討状況に関するアンケート調査結果

■ 本件に関するお問い合わせ先  
スポーツ指導者育成部  
担当：石黒、渡部  
TEL：03-3481-2226

# コーチング及びコーチの現状と課題

コーチがコーチングに必要な知識・技能を十分に修得していない

その結果…

- 倫理的に認められない行動
- 不適切なコミュニケーション
- 非合理的なトレーニング
- 競技者やチームのパフォーマンスの低下
- バーンアウト
- オーバーユース

競技横断的な知識・技能が十分に学ばれていない

例えば、

- 哲学や倫理
- 内発的動機付け
- 言語的・非言語的コミュニケーション能力
- リスクマネジメント
- 競技者の長期的なスポーツキャリアを視野に入れたコーチングの在り方

知識・技能を学んでも、実際のコーチングの現場においては、自らが競技者として経験してきたコーチングの在り方に影響され、新しく得た知識・技能が十分に活用されない場合もある



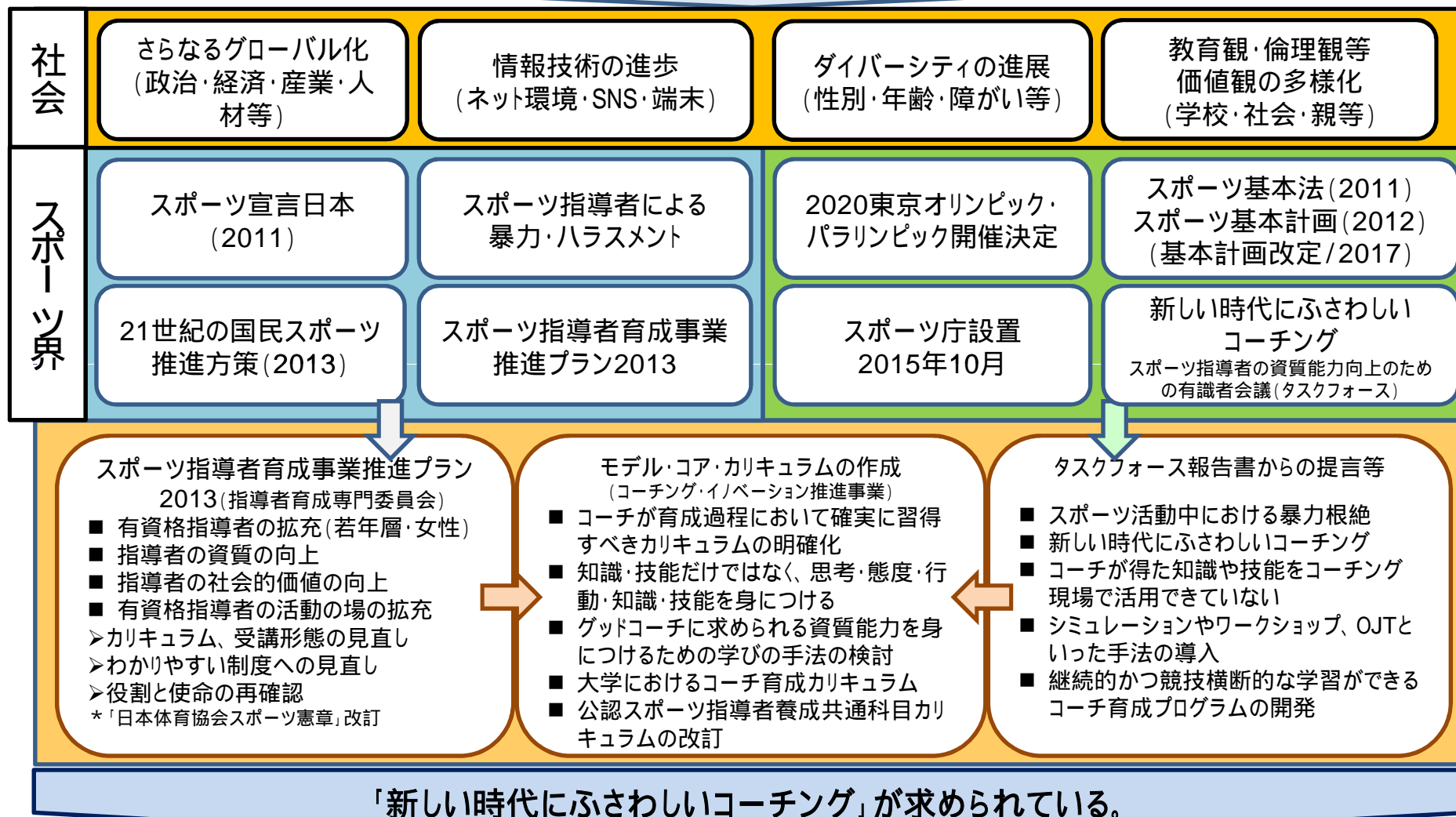
今日的な競技者のニーズや社会的課題を踏まえて、我が国のスポーツ界としてコーチングに必要な知識・技能について一定の共通認識を作るとともに、それらがコーチングの現場で有効に活用される方策について、検討することが必要

# 日本体育協会公認スポーツ指導者制度 検討プロジェクト 基本計画

公益財団法人日本体育協会

# 日体協の指導者養成を取り巻く状況

2005年の制度改定から10年が経過。社会もスポーツ界も大きく変化している



\*「新しい時代にふさわしいコーチング」  
「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」であることを常に意識して行われるもの

「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議(タスクフォース)報告書」

# プロジェクトの全体像

## 設置の背景

現行の公認スポーツ指導者制度は2005年度に改定し、10年が経過した。その間に、本会は創立100周年を迎え、「スポーツ宣言日本」で、これからの100年におけるスポーツの使命を示し、これに基づき「スポーツ推進2013」で10年間の方向性を提示した。さらに、指導者育成については、今後5年間の指針として『スポーツ指導者育成事業推進プラン2013』を策定し、カリキュラム、受講形態、わかりやすい制度への見直し、役割と使命の再確認など「制度の評価・改善」を進めてきた。

スポーツ界全体では、スポーツ基本法およびスポーツ基本計画の制定、スポーツ活動中の暴力行為の社会問題化、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定、そして、スポーツ庁の設置など、社会的関心が大きな高まりをみせた。

さらに2013年度に国が設置した「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議」で、新しい時代にふさわしいコーチングのあり方について、コーチ育成の具体的な課題と資質能力の向上方策が提言され、国として「コーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラム」を策定するに至っている。

2005年(前回制度改定時)から10年間で、日体協の指導者養成を取り巻く状況・スポーツ指導者に求められる資質・能力は大きく変化しており、新しい時代にふさわしい指導者制度に生まれ変わる必要がある。



# プロジェクトの全体像

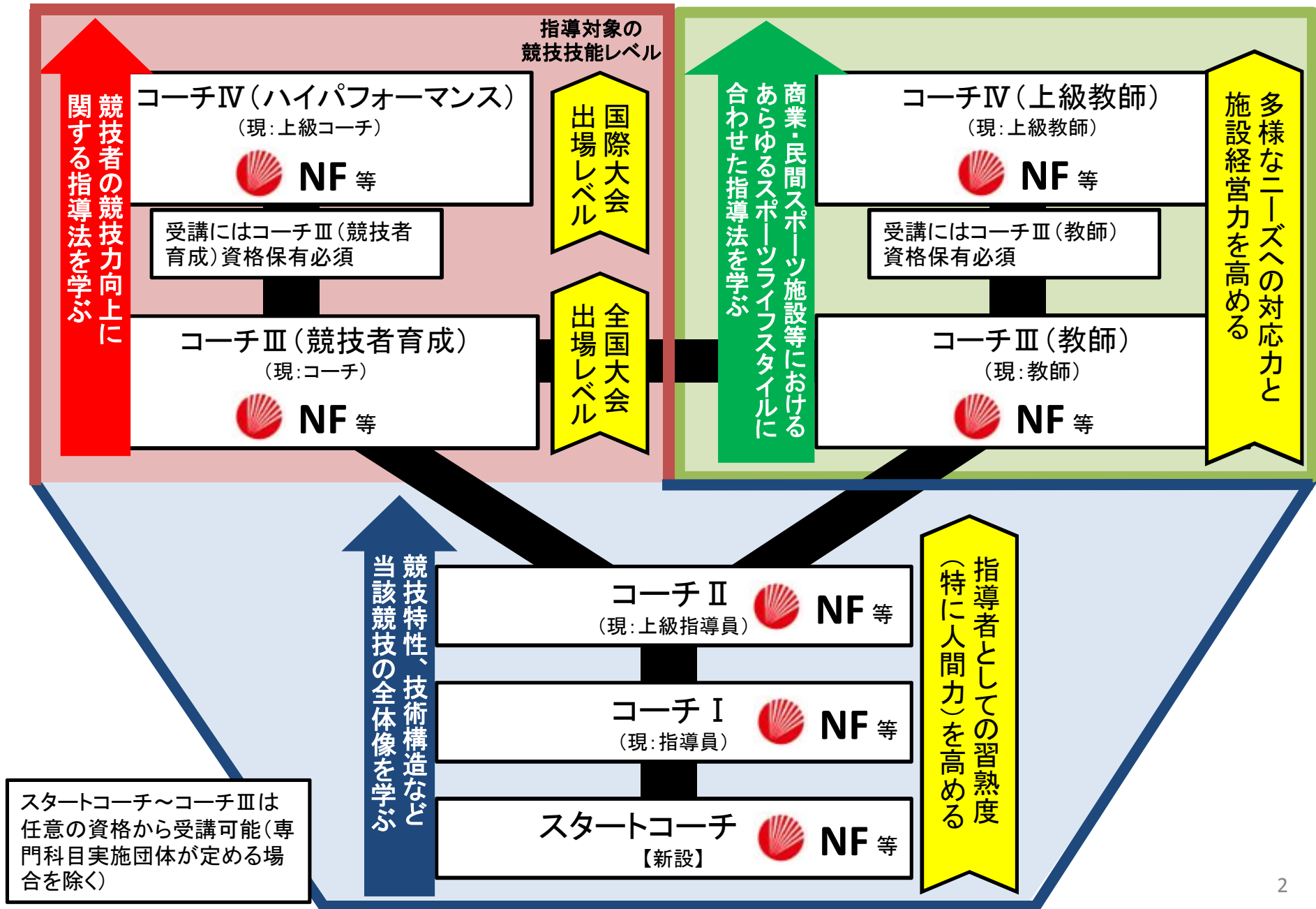
## 達成目標

日本体育協会公認スポーツ指導者制度を  
我が国スポーツ界全体で方向性を共有した  
世界基準の指導者制度にする

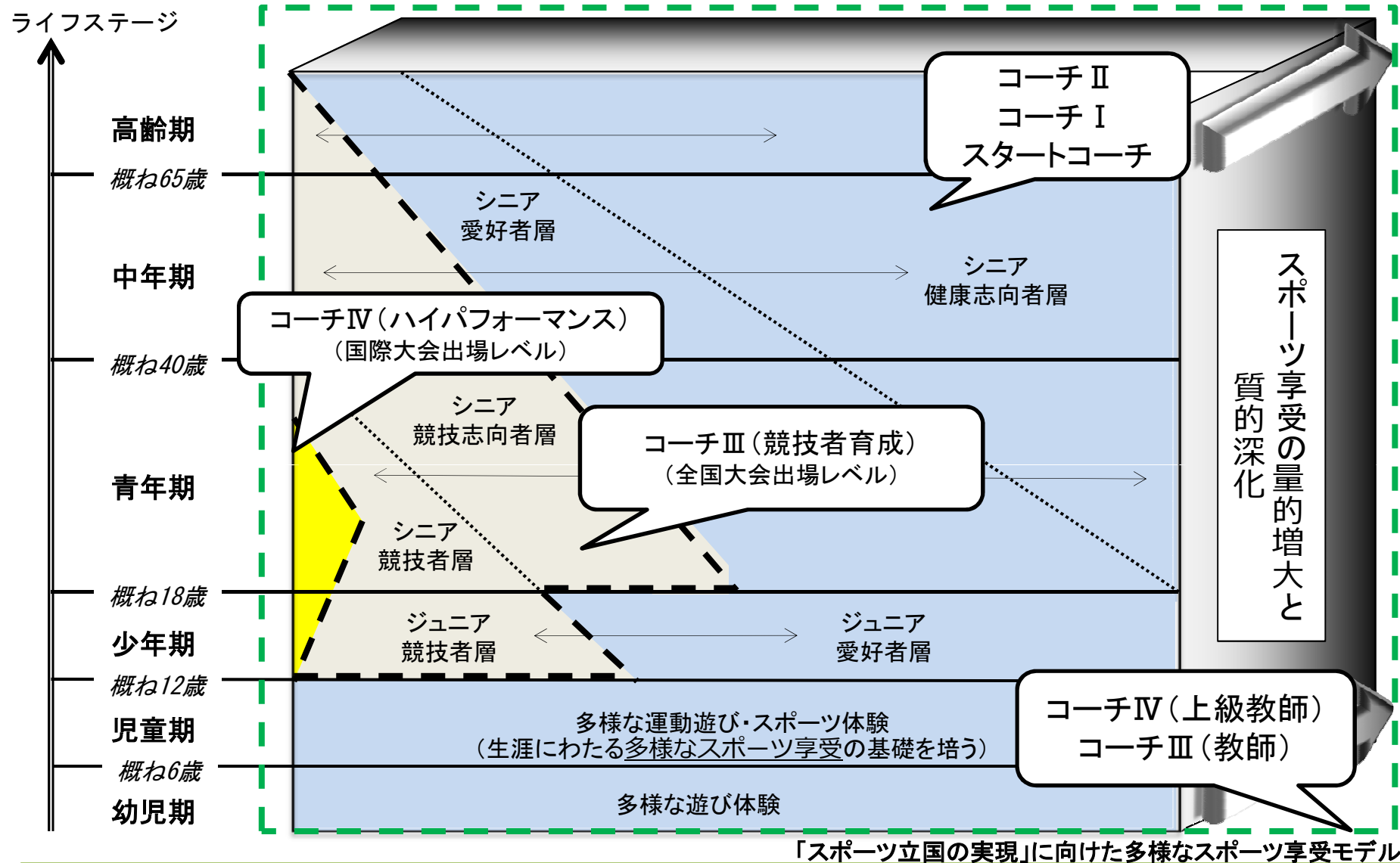
## ミッション

- Mission.1** : 新しい時代に求められる資格のあり方を検討し、「スポーツ・コーチングに関する国際枠組み (ISCF)」を参考に、指導者のパスウェイを明確にする
- Mission.2** : 国内スポーツ団体と連携し、各団体の人的・情報資源を活用したオールジャパンでの指導者育成体制を確立する
- Mission.3** : コーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラムを導入する
- Mission.4** : 学校教員の資格取得を支援する

# ■競技別指導者資格の資格区分(改定修正案)



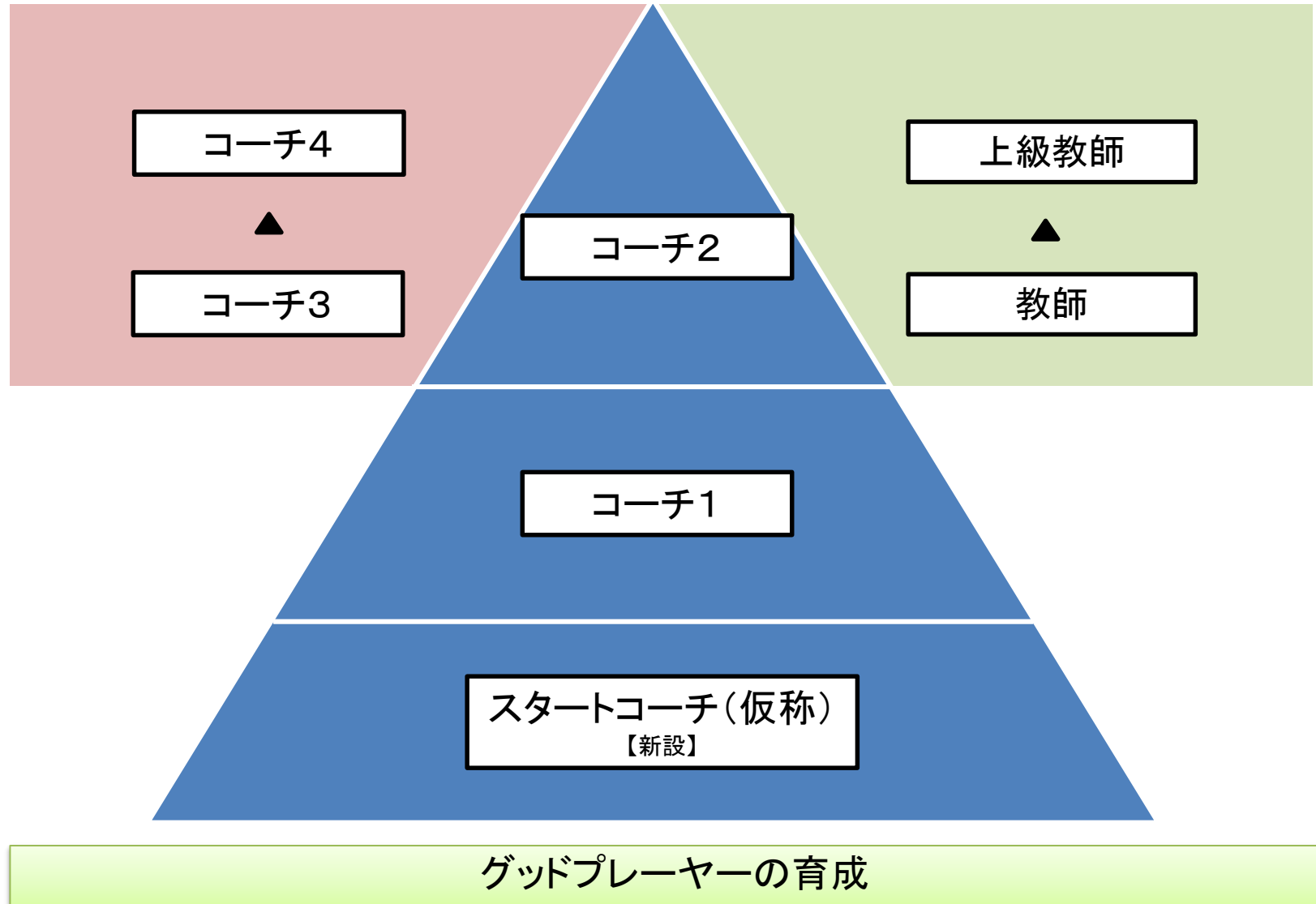
# ■改定修正案における資格区分と指導対象イメージ図



- ・スタートコーチ、コーチⅠ・Ⅱは指導対象は同一だが、指導者としての習熟度が異なる。
- ・コーチⅢ・Ⅳ(ハイパフォーマンス)は競技者の競技力向上に向けた指導にあたる。
- ・コーチⅢ・Ⅳ(教師・上級教師)は商業・民間スポーツ施設等であらゆる対象の指導にあたる。

# ■競技別指導者資格のイメージ(案)

資料No.3



新制度における競技別指導者資格の概要(案)

No.	資格名称	スタートコーチ (仮称) (新設)	コーチ 1	コーチ 2	コーチ 3	コーチ 4	教師	上級教師	備考
1	認定者	日体協競技団体							スタートコーチ (仮称) についても協同認定資格とする。
2	受講科目	共通科目	共通 I	共通 II	共通 III	共通 IV	共通 III	共通 IV	
		専門科目	専門科目	専門科目	専門科目	専門科目	専門科目	専門科目	
3	想定指導対象像	すべてのプレーヤー (幼児期・児童期の子どもから、中高年の愛好者・健康志向者、競技者を含むスポーツ実施者全体を指す) ※指導対象の競技技能レベルや年齢等については、各専門科目実施団体において定める。							
4	受講条件 (全て満たすこと)	・受講年度の4月1日現在で満18歳以上の者	・受講年度の4月1日現在で満20歳以上の者	・受講年度の4月1日現在で満20歳以上の者 ・専門科目実施団体が認めた者	・受講年度の4月1日現在で満22歳以上の者 ・専門科目実施団体が認めた者	・受講年度の4月1日現在で満20歳以上の者 ・専門科目実施団体が認めた者	・受講年度の4月1日現在で満22歳以上の者 ・専門科目実施団体が認めた者	・受講年度の4月1日現在で満20歳以上の者 ・専門科目実施団体が認めた者	・その他の条件については専門科目実施団体が設定。 ・コーチ 4 はコーチ 3 資格の保有を、上級教師は教師資格の保有を必須とする。
5	想定受講者像	・指導者としての知識・技能を少しでも身に付けておきたい方	・スタートコーチ (仮称) 資格保有者・保護者・教員・ボランティア等で、コーチングを学びたい方	・コーチ 1 資格保有者 ・『6. 資格取得後の役割』を現在担っている、または今後担う意思がある方	・コーチ 2 資格保有者 ・『6. 資格取得後の役割』を現在担っている、または今後担う意思がある方	・コーチ 3 資格保有者で、『6. 資格取得後の役割』を現在担っている、または今後担う意思がある方	・コーチ 2 資格保有者 ・『6. 資格取得後の役割』を現在担っている、または今後担う意思がある方	・教師資格保有者で、『6. 資格取得後の役割』を現在担っている、または今後担う意思がある方	
※受講者自身の競技経験や指導経験を加味するか否かは、競技特性などがあり一律に定めることがそぐわないため、各専門科目実施団体が決定する。									
6	資格取得後の役割 (講習内容を踏まえた指導領域や役割)	・地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等でのコーチングアシスタント (指導補助) ・上位資格者と協力して安全で効果的な活動を提供する	・地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等でのコーチングスタッフ ・基礎的な知識・技能に基づき、安全で効果的な活動を提供する	・地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等の監督・ヘッドコーチ ・責任者として安全で効果的な活動を提供し、指導計画を構築・実行・評価し監督する ・コーチ間の関わり・成長を支援する	・ブロック～全国大会レベルの競技者・チームに対して競技力向上を目的としたコーチングを行う ・トップリーグ、実業団のコーチングアシスタント (指導補助)	・国際大会レベルの競技者・チームに対して競技力向上を目的としたコーチングを行う ・トップリーグ、実業団のコーチングスタッフ ・ナショナルチームのコーチングスタッフ	・商業・民間スポーツ施設等で幅広い年齢層の多様なスポーツライフスタイルを志向する会員や利用者に応じたコーチング ・クラブや商業・民間スポーツ施設の日常運営業務にあたる	・商業・民間スポーツ施設等における実技指導の責任者・チーフ ・クラブや商業・民間スポーツ施設の企画営業業務にあたる	・ブロックレベル以上の大会に参加するコーチは、コーチ 3 以上の資格取得を推奨する。 ・大会参加資格は各大会の定めによる。
※資格取得者の指導現場、指導対象者の活動目的に応じて、所属先および競技団体等の関係者と相談の上決定していくものであり、あくまで指標・目安として示すものである。									
7	共通科目受講で得られるコンピテンス (他者との関わりの中で習得され、発揮される能力)	・スポーツの意義と価値の理解 ・スポーツ・インテグリティの理解 ・倫理的な指導・コミュニケーションの理解 (暴力行為根絶に向けた取組の理解) ・プレーヤーの安全管理	・共通科目 [スタートコーチ (仮称) 用] で得られるコンピテンス ・倫理的な指導・コミュニケーション ・プレーヤーの安全管理 ・指導対象との信頼関係構築 ・スポーツライフのデザインに係る基礎的理解	・共通科目 I で得られるコンピテンス・所属先・保護者・コーチ間の信頼関係構築 ・指導対象者のスポーツライフのデザインを念頭に置いた指導力	・共通科目 II までで得られるコンピテンス ・コンディショニングスタッフとの信頼関係構築 ・指導対象者自身が自らスポーツライフをデザインできるよう促す指導力	・海外での活動、国際大会への準備と管理 ・指導対象へのスポーツ・インテグリティ教育 ・一般社会・メディアとの関係構築 ・スポーツライフをデザインできる指導者を育成・指導	・共通科目 II までで得られるコンピテンス ・商業・民間スポーツ施設経営者との信頼関係構築 ・指導対象者自身が自らスポーツライフをデザインできるよう促す指導力	・インストラクター間の信頼関係構築・スポーツライフをデザインできる指導者を育成・指導	・講習内容の基準になるものであると同時に資格認定時の評価基準も兼ねるものである。 ・共通科目を学ぶ受講者が得られるコンピテンス。
8	専門科目受講で得られると想定されるコンピテンス	・当該競技の魅力を知る	・競技特性、技術構造等当該競技への基礎的理解 ・日々の活動 (練習・試合) を実施するための指導力	・当該競技への基礎的理解を踏まえた指導力 ・指導計画に関するビジョンと戦略の設定 ・指導に適した環境整備 (クラブ/チームのマネジメント)	・当該競技の全体像を踏まえた指導力 ・指導に適した環境整備	・当該競技を発展させることが出来る指導力 ・海外での活動、国際大会への準備と管理 (競技特性を踏まえる)	・当該競技の全体像と指導対象のニーズを踏まえた指導力 ・基本的なホスピタリティ	・当該競技の全体像と指導対象のニーズを踏まえた指導力 ・クラブや施設経営のビジョンと戦略の設定、健全な経営能力	

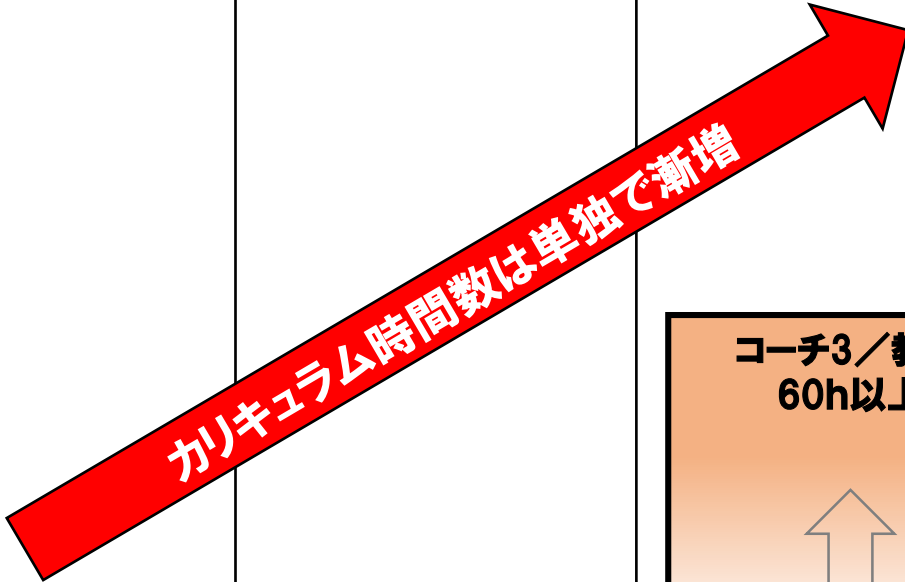
# 共通科目区分(案)

共通科目	スタートコーチ (仮称) 【競技別資格】	共通 I	共通 II	共通 III	共通 IV
カリキュラム 時間数 (集合&自宅)	15h	共通 I : 45h	<MCCの135hをクリア> 共通 II : 135h 共通 I : 45h	共通 III : 150h 共通 II : 135h 共通 I : 45h	共通 IV : 151h以上 NCA※との接続を 念頭においた 独自カリキュラム 共通 III : 150h 共通 II : 135h 共通 I : 45h
		単独時間数	15h	45h	135h
集合講習日数	3h (NFが実施)	通信講座	3日程度	3日程度	3日程度
自宅学習	12 h	45 h	集合講習の時間数による	集合講習の時間数による	集合講習の時間数による

※NCA : JOCナショナルコーチアカデミー

# 競技別資格 専門科目区分(案)

専門科目	スタートコーチ (仮称)	コーチ 1	コーチ 2	コーチ 3	コーチ 4
				教師	上級教師
カリキュラム 時間数 (集合&自宅)	4h以上	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>コーチ1 20h以上</b> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>コーチ2 40h以上</b> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>コーチ3／教師 60h以上</b> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>コーチ4／上級教師 80h以上</b> </div>
		<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; text-align: center;">                     コーチ1:20h以上                 </div>	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; text-align: center;">                     コーチ1:20h以上                 </div>	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; text-align: center;">                     コーチ2:40h以上                 </div>	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; text-align: center;">                     コーチ3:60h以上                 </div>
単独時間数	4h以上	20h以上	40h以上	60h以上	80h以上
集合講習日数	4h以上	NFに委ねる			
自宅学習	カリキュラムおよび集合講習の時間数による				



# コーチ1（旧公認フェンシング指導員）

カリキュラム(案) 2019・4月以降適用

区 分		カリキュラム内容			時 間 数		
		No.	科 目		集合	その他	合計
1	種目の特性に応じた基礎理論	①	フェアプレイとドーピング	マネジメント	1 h	h	
		②	フェンシングの障害や故障とその予防	専門的知識・技能	2 h	2 h	
		③	指導者の役割(コーチングとコミュニケーション)	マネジメント	1 h	h	
		小 計				4 h	2 h
2	実技実習	①	発育発達に合わせたフットワークの指導法	専門的知識・技能	2 h	4 h	
		②	フルーレの指導法(技術・戦術)	専門的知識・技能	4 h		
		小 計				6 h	4 h
3	指導実習	①	指導実践1(集団指導)フルーレ	専門的知識・技能	2 h	4 h	
		②	指導実践2(個人指導)フルーレ	専門的知識・技能	4 h		
		小 計				6 h	4 h
合 計					16 h	10 h	26 h

集合カリキュラム日程目安

日体協指定 Min. 20 h

Day-1	09:00-12:00/13:00-18:00	8	h
Day-2	09:00-12:00/13:00-18:00	8	h
合計		16	h



# コーチ3（旧公認フェンシングコーチ）

カリキュラム(案) 2019・4月以降適用

区 分		カリキュラム内容			時 間 数		
		No.	科 目		集合	その他	合計
1	種目の特性に応じた基礎理論	①	フェンシングの審判技能と最新ルール	専門的知識・技能	1 h	h	
		②	フェンシングの障害や故障とその予防	専門的知識・技能	3 h	h	
		③	フェアプレイとドーピング	マネジメント	2 h	h	
		④	科学的アプローチ	マネジメント	2 h	h	
		小 計				8 h	
2	実技実習	①	指導法(フルーレ)	専門的知識・技能	5 h	12 h	
		②	指導法(エペ)	専門的知識・技能	5 h		
		③	指導法(サーブル)	専門的知識・技能	5 h		
		④	競技特性を考慮したフットワーク	専門的知識・技能	2 h		
		小 計					
3	指導実習	①	指導実践1(指導計画)フルーレ	専門的知識・技能	2 h	12 h	
		②	指導実践2(個人指導)フルーレ	専門的知識・技能	2 h		
		③	指導実践3(集団指導)フルーレ	専門的知識・技能	2 h		
		④	指導実践4(世界の傾向一判定、技術)	専門的知識・技能	1 h		
		小 計					
合 計				32 h	28 h	60 h	

集合カリキュラム日程目安

日体協指定 Min. 60 h

Day-1	09:00-12:00/13:00-18:00	8	h
Day-2	09:00-12:00/13:00-18:00	8	h
Day-3	09:00-12:00/13:00-18:00	8	h
Day-4	09:00-12:00/13:00-18:00	8	h
合計		32	h

コーチ4（旧公認フェンシング上級コーチ）

カリキュラム(案) 2019・4月以降適用

区 分		カリキュラム内容			時 間 数		
		No.	科 目		集合	その他	合計
1	種目の特性に応じた基礎理論	①	フェンシングの審判技能	専門的知識・技能	2 h	h	
		②	フェンシングの最新改訂ルール	専門的知識・技能	1 h	h	
		③	フェンシングの障害や故障とその予防	専門的知識・技能	3 h	12 h	
		④	コミュニケーション・プレゼンテーションスキル	マネジメント	2 h		
		⑤	ライフスキル・コーチング	マネジメント	4 h	h	
		小 計				12 h	12 h
2	指導実習	①	指導実践1(フルーレ)	専門的知識・技能	5 h		
		②	指導実践2(エペ)	専門的知識・技能	5 h		
		③	指導実践3(サーブル)	専門的知識・技能	5 h	36 h	
		④	指導実践4(最新技術と改訂ルールに合わせたレッスン)	専門的知識・技能	3 h		
		⑤	選手技術に合わせたフットワーク	専門的知識・技能	2 h		
		小 計				20 h	36 h
合 計				32 h	48 h	80 h	

集合カリキュラム日程目安

日体協指定 Min. 80 h

Day-1	09:00-12:00/13:00-18:00	8	h
Day-2	09:00-12:00/13:00-18:00	8	h
Day-3	09:00-12:00/13:00-18:00	8	h
Day-4	09:00-12:00/13:00-18:00	8	h
合計		32	h